

アラガーデン・シリーズの施用効果をも高めるポイント

ALA入り肥料・製品一覧

種類	商品名	略称	成分(%)	特徴
化成肥料	アラガーデン・ファーム	ファーム	10-10-10	高濃度ALA入り粒状肥料(種肥)
	アラガーデン・ファームBB515	BB515	15-1-15	アラガーデン・ファーム(種肥)と化成肥料をブレンドした肥料
	アラガーデン・ファームBB403	BB403	14-10-13-Mg1-B0.1	
	アラガーデン・ファーム【即溶】	【即溶】	14-6-10	完全水溶性粒状肥料
液体肥料	アラガーデンVFF	VFF	8-5-3-Mg3-微量元素	ALA入り基本液体肥料
効果をも高める 組合せ肥料	エムセン(M-1000)		Mg2.0-Fe1.0-微量元素	総合微量元素液肥
	ハーモニー		水溶性Mg;20	粒状硫酸苦土肥料

ALA入り肥料の施用効果をも高めるポイント

- ポイント1：根の近くに施用する、施用後早い時期に根と肥料が接触できるように工夫する
定植直前の植え位置に条施、株元施用など（深層施肥（待ち肥）には適さない）
粒状肥料に含まれるALAを植物が吸収出来る期間は施肥後20日間程度と考えられる
- ポイント2：苦土・鉄の併用が効果をも高める（エムセン、ハーモニー等の併用）
- ポイント3：養分吸収が増加する時期、追肥のタイミングなどで施用する
- ポイント4：濃い液肥の1回散布より薄くても回数多く散布する

作物別・アラガーデン・シリーズ使用例

共通事項	標準希釈倍数	注意事項
	アラガーデンVFF:3,000~4,000倍(33~25mL/100L) アラガーデン・ファーム【即溶】を液肥で使う:1,000倍(100g/100L) エムセン(M-1000):1,000倍(100mL/100L)	希釈に用いる水がアルカリ性(概ねpH8以上)の場合はクエン酸で中和してから用いること(施用効果の低下) アラガーデン・ファーム【即溶】を液肥として用いる場合は必ずストレーナー等で濾過してから使用する(目詰まり防止) 土壌が乾燥しているときの葉面散布は行わないこと、必ず前日に十分灌水してから散布すること(薬害防止) 日中散布は避け早朝に散布する(特に【即溶】の夏期高温時使用は注意し、散布濃度を薄くする)(施用効果・薬害防止)
	農薬との混用はpage4参照	

作物名	施用方法	摘要(肥料名は製品一覧を参照)	10a当たり
キャベツ ハクサイ	元肥	①慣行の肥料を元肥に使う 予め慣行の肥料とファーム(10-10-10)を9:1の比率で混合した物を施肥後10日以内に定植する(ハーモニー20kgを併用することが望ましい)	
	追肥	②施肥基準に準じたBB403+ハーモニー20kgを施用後10日以内に定植 外葉生育期と結球始めにBB515(冬季は【即溶】)を株元に施肥(施肥量・施肥時期は施肥基準に準じる)	
	葉面散布または土壌 灌注処理	葉面散布する場合:VFF3,000~3,500倍または【即溶】1,000倍液+エムセンを7~10日間隔で葉面散布	
	外葉生育期と結球始めから玉の充実期	土壌灌注する場合:VFF50~120mLまたは【即溶】1~2kg+エムセン200mLを適量の水で希釈し土壌に灌水施用する (注意:【即溶】1kgには窒素-りん酸-加里を0.14-0.06-0.1kg含む)	

作物名	施用方法	摘要(肥料名は製品一覧を参照)	10a当たり	
レタス	元肥	①慣行の肥料を元肥に使う 予め慣行の肥料とファーム(10-10-10)を9:1の比率で混合した物を施肥後10日以内に定植する(ハーモニー20kgを併用することが望ましい)		
		②施肥基準に準じたBB403+ハーモニー20kgを施用後10日以内に定植		
	葉面散布または土壌灌注処理	葉面散布:VFF3,000~3,500倍または【即溶】1,000倍液+エムセンを葉面散布する 散布時期:定植後2週間後・外葉生育期・結球はじめ・玉の充実期 土壌灌注:VFF50~80mLを適量の水で希釈し土壌灌注する		
軟弱葉菜類	本葉5葉期~収穫前	VFFまたは【即溶】1,000倍液+エムセン1,000倍を2~3回葉面散布する		
	播種前表土施肥	播種直前にファーム(10-10-10)3~4kgを表層土に施用する		
ネギ (白ネギ)	①定植直前施肥	慣行の元肥を施用後、植え位置にファーム(10-10-10)3kgをすじ撒き、直後に定植する(元肥は苦土入り肥料を使うかハーモニーの併用が望ましい)		
	②土寄せ時施肥	元肥、追肥は慣行通り施用し、1回目の土寄せ時にファーム(10-10-10)3kgを株元に施用する		
	③追肥	【即溶】10kg(施肥基準に従う)を株元に施用する、または慣行追肥+ファーム(10-10-10)3kgでも良い(特に寒冷期は【即溶】が有効)		
	①定植直前施肥もしくは②土寄せ時施肥いずれでも良いが、作期の長い場合は③追肥も併用する			
ブロッコリー	定植後の活着促進	定植後にVFF3,500~4,000倍を葉面散布する		
	定植後3週間~収穫期まで	VFFまたは【即溶】1,000倍液+エムセン1,000倍を葉面散布する		
	追肥	1回目の追肥としてBB515または【即溶】(施肥基準に準じた量)+ハーモニー5kgを株元に施用する(冬季は【即溶】が望ましい)		
タマネギ	元肥	BB403(施肥基準に準じた量)+ハーモニー20kgを施用後10日以内に定植する		
	定植後の活着促進	定植数日後にVFF3,500~4,000倍を葉面散布する		
	追肥	1回目の追肥を【即溶】+ハーモニー5kgで行う(施肥量は施肥基準に従う)		
	葉面散布	VFFまたは【即溶】1,000倍液+エムセン1,000倍液を生育期に数回葉面散布する		
イチゴ	定植後の活着促進	VFFを4,000~5,000倍に希釈して茎葉散布する		
	粒状肥料(ファーム)の株元施用	定植後1ヶ月ほど経過したら、ファーム(10-10-10)を1株当たり1~0.5gを株元に施用する		
	茎葉散布	第1花房が開花したところからVFFを3,000~4,000倍で2週間間隔で茎葉散布する VFF40~80mLを適量の水に希釈して土壌灌水施用しても良い		
	灌水時施用	VFFを10,000~20,000倍に希釈して灌水代わりに施用する		
	液肥による追肥	慣行の液肥に50~80mLのVFFを混合して灌水施肥する		
	注意: ALAIによって窒素の吸収と代謝が向上するので、過剰施肥に十分注意する			
	キュウリ	定植時施肥	慣行の元肥施用し、定植直後にファーム(10-10-10)を1株当たり2~3g(約40~60粒)を表土に施用する(1,000株植え、2~3kg/10a相当) 定植直前に3kgのファーム(10-10-10)を定植位置の表層に条施しても良い	
追肥 (液肥による灌水施肥の場合)		慣行の液肥+VFF50~120mLを適量の水で希釈し灌水施肥 または【即溶】10kg+エムセン200mLを3,000L程度の水に溶解し、灌水施肥(【即溶】10kgにはN-P-K=1.4-0.6-1.0kgを含む)		
葉面散布		定植1ヶ月後~収穫終了までVFFを2週間間隔で茎葉散布		

作物名	施用方法	摘要(肥料名は製品一覧を参照)	10a当たり
スイカ	定植後の活着促進	定植の数日後にVFF50～60mLを適量の水で希釈し株元(土壌)に施用する	
	葉面散布または土壌灌注処理	開花期と玉肥大期を中心にVFF(ターフ)を数回葉面散布またはVFF(ターフ)50～120mLを適量の水で希釈し株元(土壌)に施用する	
ナス	定植時施肥	慣行の元肥施用後、定植直後にファーム(10-10-10)を1株当たり2～3g(約40～60粒)を表土に施用する(1,000株植え、2～3kg/10a相当) 定植直前に3kgのファーム(10-10-10)を定植位置の表層に条施しても良い	
	追肥	施肥基準に準じた追肥を行うが、その内1～2回を【即溶】+ハーモニー5kgに置き換える (作期の長い作物では定植時+1～2回の追肥を行う)	
	葉面散布または土壌灌注処理	定植1ヶ月後～収穫終了までVFFまたは【即溶】1,000倍液+ハーモニー1,000倍を2週間間隔で茎葉散布する VFF50～120mLを適量の水で希釈し土壌に施用しても良い	
トマト	定植時施肥	慣行の元肥施用後、定植直後にファーム(10-10-10)を1株当たり1.5g(約30粒)を苗の周囲の表土に施用する(2,000株植え、3kg/10a相当) 定植直前に3kgのファーム(10-10-10)を定植位置の表層に条施しても良い	
	追肥(液肥による灌水施肥の場合)	慣行の液肥+VFF50～120mLを適量の水で希釈し灌水施肥 または【即溶】10kg+エムセン200mLを3,000L程度の水に溶解し、灌水施肥する (【即溶】10kgにはN-P-K=1.4-0.6-1.0kgを含む)	
	追肥(粒状肥料などを使う場合)	施肥基準に準じた追肥を行うが、その内1～2回を【即溶】+ハーモニー5kgに置き換える(作期の長い作物では定植時+1～2回の追肥を行う)	
	葉面散布	定植1ヶ月後～収穫終了までVFF3,000倍液または【即溶】1,000倍液+エムセン1,000倍を2週間間隔で茎葉散布する VFF50～120mLを適量の水で希釈し土壌に施用しても良い	
エダマメ	茎葉散布	VFFを開花後から落花までに数回茎葉散布	
エンドウ	茎葉散布	VFFを間引き～開花前に3回、収穫期に4～5回茎葉散布する	
ニンジン	葉面散布	VFFを播種後45日(本葉6～8枚)ころから2～3回、根部肥大期～根充実期に4～5回葉面散布する	
ジャガイモ	茎葉散布	VFFを着蕾期から終花に1週間間隔で5回茎葉散布する	
ダイズ	茎葉散布	VFFを開花始期に3回茎葉散布する ※開花終期に散布すると収量は増加するが成熟が遅れる場合がある	
秋まきコムギ	追肥	2月下～3月上旬ころ、施肥基準に準じて【即溶】+ハーモニー10kgを追肥	
	茎葉散布	VFFを幼穂形成期に1回、出穂～開花期に2～3回茎葉散布	
水稲	穂肥(標準使用法)	BB515を出穂10日前に10～15kgを目安に施用する(早期米には使用しない)	
	葉面散布	VFF3,000倍液を出穂前後に7～10日間隔で2回茎葉散布する(午前中に)	
	注意事項	早生品種では成熟が数日遅れることがあるので早期米には使用しない	
ビート	葉面散布	【即溶】1,000倍液+エムセン1,000倍またはVFF3,000倍を葉面散布する(散布時期:6月上旬、6月下旬、7月上旬、8月上旬、8月下旬)	
ブドウ	茎葉散布	VFF+エムセン1,000倍を下記の時期に茎葉散布する 新梢伸長期、開花後(はく皮)、果実肥大期、収穫後落葉前、各々2～3回	
日本ナシ モモ リンゴ	茎葉散布 または土壌灌注	VFF+エムセン1,000倍液300～400Lを茎葉散布またはVFF80～120mL+エムセン200mLを適量の水で希釈し土壌灌注 施用時期:出葉後、果実肥大期(3～5回)、落葉前の養分蓄積期に2回	
チャ	葉面散布	一番茶前(3～4月)と一番茶収穫後から二番茶前まで、それぞれ2～3回、VFFを葉面散布する	

〈参考資料：農薬との混合適否〉薬剤の変性が無いことを保証するものではありません

注意事項：散布薬剤の調製は使用の都度行い、作り置きはしないで下さい。

アルカリ性農薬との混用は出来ません。その他ALA濃度の低下を招く薬剤もありますので、下表で確認して下さい。

本資料は農薬との混用を推奨することを意図するものではありません。ALA肥料は原則単用をお薦めしています。農薬と混用する場合は、薬害や散布液の不安定化に特にご留意下さい。

農薬名	有効成分	適否	農薬名	有効成分	適否
殺菌剤			マイコシールド	オキシテトラサイクリン	△
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅カルシウム	×	マネージDF	イミベンコナゾール	○
アグリマイシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン	○	モンカット	フルトラニル	○
アツタキン水和剤	ストレプトマイシン硫酸塩チオファネートメチル	△	モンセレン	ベンシクロン	○
アリエッティ	ホセチル	○	ユニックスZ水和剤	ジプロニジル	○
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	○	ラリー水和剤	マイクロバニル	○
アントラコール	プロピネブ	△	ランマンフロアブル	シアゾファミド	△
サルファー	硫黄	○	リゾレックス	トリクロホスメチル	○
エムダイファー水和剤	マンネブ	×	リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタラキシルM	△
オーソサイド水和剤	キャプタン	○	ロプラール水和剤	イプロジオン	○
オキシラン水和剤	キャプタン、有機銅	○	殺虫剤		
オンリーワンフロアブル	テブコナゾール	○	MRジョーカー水和剤	シラフルオフェン	△
カスミンボルドー	カスガマイシン塩酸塩、塩基性塩化銅	×	アクタラ顆粒	チアメトキサム	△
カンタスドライフロアブル	ボスカリド	○	アグロスリン乳剤	シペルメトリン	○
キノンドー80水和剤	有機銅	○	アデオオン乳剤	ペルメトリン	○
コサイド3000	水酸化第二銅	×	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド	△
サブロール乳剤	トリホリン	○	アプロード水和剤	ブブDフェジン	○
サルバトーレ	テトラコナゾール	○	エパーゴルプラス	クロラントラニプロール、イミダクロプリド	△
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ75%	×	カルホス	イソキサチオン	○
ジマンダイセンフロアブル	マンゼブ20%	○	クルーザー	チアメトキサム	△
ストロビードライ	クレソキシムメチル	○	コロマイト水和剤	ミルベメクチン	△
スペックス水和	ジラム・チウラム・フェナリモル	○	サンマイト水和剤	ピリダベン	△
スミレックス	プロシミドン	○	ジメート粒剤	ジメート	△
セイビアーフロアブル20	フルジオキシニル	○	ジュリボフロアブル	クロラントラニプロール・チアメトキサム	△
ダイファー水和	マンネブ	×	スピノエース	スピノサイド	○
ダコニール1000	テトラクロロインソフタロニトリル(TPN)	○	スプラサイド乳40	メチダチオン(DMTP)	○
ダコレート水和	ベノミル、フタロニトリル(TPN)	○	スミチオン水和剤	フェニトロチオン(MEP)	○
タチガレン	ヒドロキシイソキサゾール	○	ダーズパンDF	クロルピリホス	△
チオノック	チウラム	△	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	○
チルト乳剤	プロピコナゾール	○	テルスター	ビフエントリン	○
デランフロアブル	ジチアノン	○	トモノールS	マシン油	○
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	×	トルネードエースDF	インドキサカルブ	○
ドキンフロ	有機銅	○	トレボン	エトフェンプロックス	○
トップジンM	チオファネートメチル	△	ネキリエースK	イソキサチオン	○
ナリアWDG	ピラクロストロビン、ボスカリド	○	ノンブラストレボン粉剤	エトフェンプロックス、フェリムゾン	○
パスポートフロ	テトラクロロインソフタロニトリル(TPN)	○	ハーベストオイル	マシン油	○
バリダシン	バリダマイシン	○	バダンSG水溶剤	カルタップ塩酸塩	○
プレビクールN	プロパモカルブ塩酸塩	○	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド	△
プロポーズ顆粒	ベンチアバリカルブイソプロピル TPN	○	ファイブスター顆粒	パチルス毒素	△
ベフキノン水和	イミノクタジン酢酸塩、有機銅	○	フェニックス顆粒	フルベンジアミド	○
ベフラン液剤	イミノクタジン酢酸塩	○	プレオフロアブル	ピリダリル	○
ベルコート水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩	○	モスピラン水溶剤	アセタミプリド	○
ペンコゼブ水和剤	マンゼブ75%	×	ラービン	チオジカルブ	○
ベンレート水和剤	ベノミル	○	ロムダン	テブフェノジド	○

凡例 ○：ALA濃度の低下が認められない

△：ALAの濃度低下が起こる(薬液調整後直ちに使い切る)

×：ALA濃度の低下が著しく混用できない

(株)コスモトレードアンドサービスによる

